

# 2002 ALL JA コンテスト 入賞者はかく戦った

今回、シングルオペオールバンド部門で入賞した6名の方に寄稿をいただきました。開局間もない初心者から、連覇を続けているベテランまで、様々な方がいますが、誰にでも上位入賞、優勝のチャンスはあるのです。入賞者のコメントを読んで、次回のブラッシュアップにつなげてみてください。

## 仮眠をとって体力温存

電話部門シングルオペオールバンド優勝

7N4JZK 趙達来

バンド	得点	マルチ
3.5MHz	59	25
7MHz	95	36
21MHz	55	22
28MHz	29	10
50MHz	177	13
合計	415	106

× = 43,990

## プロフィール

高校のクラブ局 (JA7YCT) で運用した経験がありますが、個人での開局は2000年7月。コンテストに真面目に参加したのは翌年の6m AND DOWNからですが、それからは欠かさず参加して楽しんでいます。

なぜ、この部門を選んだのか

一応免許上は電信も出来る事になっていますが、どうにも電信は苦手なのでとりあえずまずは電話で入賞を目指して行こうと昨年のもっぱらニューカマーでエントリーしていました。今年は自分でニューカマーのコンテストドナーになった関係上エントリーを回避し、オールバンドに参加しました。

## 使用機材

- リグ：HF 用に FT1000MPV, 50MHz 用に FT920
- アンテナ：3.5MHz 15mH DP, 7MHz 15mH DP, 21/28MHz 27mH 7エレ 50MHz 32mH

10 エレ HB9CV + 15mHGP

- ソフト：zLog for Windows

## 改善・強化ポイント

アンテナは昨年までは 3.5MHz は逆 V(10mh), 7MHz は 2 エレ HB9CV(22mh), 50MHz は 10 エレ HB9CV(32mh) の構成でした。しかし 3.5/7MHz は DP の方が国内向けに良かったのと、50MHz の 10 エレは DX 用であまりにビームが狭すぎるので、3.5 と 7MHz は 15m のコン柱を二本建ててフルサイズの DP(ダブルバズーカ) を架設、50MHz は GP(15mh) を加える事にして見ました。

## 獲得目標

電話部門は今年のオール JA から新設されたため、比較できる過去のデータがありません。そこで比較的近似すると思われる 2001 年オール JA マルチバンド QRP 部門優勝局, JI7GBI/2 局の 541QSO\*74 マルチ, 40,034 点のスコアを目標とし、各バンドの目標 QSO・マルチ数を設定しました。

## 当日の行動

コンテスト数日前から睡眠時間をたっぷりとってアルコールは控えます。前日までにアンテナの調整などは済ませておくようにしますが、3.5MHz の調整が上手く行かず当日も揚げ降ろしをしなければなりません。自分の場合、土曜は仕事ですが大体午後には終わります。そこから近所のスーパーで食料の買出しを行います。コンテスト中の食事はカップ麺とパン、それにのど飴が私のパターンです。

## スタートから終了まで

コンテストが始まる前に一通り各バンドで電波を出し、大体 60-30 分くらい前からスタートする周波

数を確保しておきます。10W の場合、スタートは 50MHz が無難です。最近の傾向として 50MHz は局数が減っただけでなく、皆さん引き上げるのも早いので、ひたすら早いうちに局数を確保しておかなければなりません。

50MHz で局数が伸びなくなったら固執しないで HF に移りましょう。特に 3.5/7MHz はバンド内にたくさんの局がありますので、片っ端から呼びまわります。ただしこちらは 10W ですから FB に聞こえていても相手が取ってくれるとは限りません。大体 3 回呼んでも全く反応がない場合は相手に聞こえてませんから次の局に移って、しばらくしてからまた呼んでみます。

7MHz は QRM が少なくなり、各局が引き上げた真夜中・早朝の時間帯を狙うとよいかもかもしれません。マルチを稼ぐのに絶好のバンドです。

21/28MHz は、夜間帯に聞こえてくる局はあまりありませんが、ほとんどがニューマルチになりますので、丁寧に拾い上げました。

3.5 から 50MHz までを丹念に動き回って大体夜中の 2, 3 時頃になるともう QSO 済みの局しか残っていませんので、一旦 QRT しました。なにしろ 24 時間の長丁場ですから徹夜では必ず日中に睡魔に襲われます。

7 時まで仮眠をして、7MHz から 21/28/50 と上がっていきました。あとはバンドの開け方やこみ具合でバンドチェンジを繰り返しますが、今回は二日目に思ったより 7MHz で局数が稼げたのが良かったと思います。

昼食時間帯と夕方にも 7MHz を狙ったのですが案の定比較的空いており、潰されないで拾ってもらえました。HF のハイバンドは意外と近場の局が取れないものです。21/28MHz はあらかじめローカル局をお願いしておきましょう。

#### アドバイス

マラソンと同じでコンテストも途中で疲れてくるともう止めた！という衝動に駆られますが、そこを我慢してやり遂げると実に爽快です。

とはいえ、いきなり完走は無理ですからまず局数

を決めて参加されることをお勧めします。

DX と比べてコンテストの一番良い所は OM さんも新人もその時点で同じ土俵で勝負できる事です。DX は長年やってらっしゃる OM さんには到底追いつけません、コンテストは一回一回が勝負ですから、若い方には是非お勧めしたいです。

まずはいつもお使いのリグとアンテナで気軽に参加されてみてください。そして QSL カードはコンテストであっても出してみましょう。

## フルタイム参加をしてみよう

電信部門シングルオペオールバンド H 優勝  
JG1ILF 松本潔

バンド	得点	マルチ
3.5 MHz	232	44
7 MHz	354	51
14 MHz	266	50
21 MHz	181	40
28 MHz	108	31
50 MHz	141	28
合計	1282	244

× = 312808

#### プロフィール

1974 年開局, 6m, HF に QRV。2m より上はほとんど出たことはありません。1984 年から QRT, 1999 年から再びオンエアするようになりました。自宅は千葉市, シャックのある君津市まで週末出かけています。コンテストは, 1982 年に一年間, 精力的に出ました。1999 年から再び, 時間を見つけて参加するようにしています。コンテスト歴で言えば 5 年目の初心者です。

#### 使用設備

- リグ HF: FT1000MP, FT1000MPmk-V, 3CX800A7x2 6m: FT920, IC756PRO, 3CX800A7
- アンテナ: 3.5MHz DP, 7MHz 3el, 14MHz

5el, 21MHz 5el, 28MHz 7el, 50MHz 7el

- ソフト zLog

#### なぜこの部門を選んだのか

参加したのは CAH 部門です。最近、電話で叫ぶ気力がなくなってきたので、電信部門にしました。シングルバンドだと局数が途中で頭打ちになり飽きてしまいますので、マルチバンド。バンドチェンジの面白さも楽しめます。

#### 獲得目標

オール JA に個人でフル参加するのは 3 回目ですが、1 回目の参加は 1982 年なので参考になりません。前回 2000 年に参加したときのスコアを参考に 1,350 局 260 マルチの目標を立てました。バンド別運用プランをおおざっぱに立てましたが、あとはコンディション任せにしました。

#### 改善・強化ポイント

7MHz のアンテナを 2 エレから 3 エレに変えました。国内コンテストにはマイナス要因なので、呼ばれ方を見ながら場合によっては他のバンドに逃げることにしました。

50MHz のリグに FT920 を使っているのですが、CW の受信特性がひどく、コンテストにはつらいものがありました。今回、受信用に IC756PRO を導入しました。フィルタ特性の変更、ポコポコ音対策をしてあるので、快適でした。

#### スタートから終了まで

21 時のスタートは 7MHz。いきなり周波数確保に失敗、うろろするうちに時間がどんどん過ぎていく。1 局目の QSO は 3 分後であった。はじめの 1 時間は良くも無し悪くも無しといった感じ、しかし 100 局は行かない。22 時過ぎに周波数を乗っ取られ、さまよいはじめる。3 エレなので国内に落ちない？しばしのんびりと CQ 出して休息。でもこのおかげで局数は悲惨なものである。

0 時を境に 3.5MHz におりる。ちょうどみんなが

呼びにまわる頃らしく、時間 81 局と、この時間にしては局数がのびた。明るくなるまでローバンドと 50MHz を行ったり来たり。40 局のペースを維持できたのは驚きである。朝 5 時を回って GW ねらいで 50MHz に上がる。CQ を出すと西方面から次々呼ばれ、マルチが次々に獲得できる。44 まで呼んできたのは驚いた。結局朝 6 時の時点で前回に比べ局数 120%、50MHz のマルチも前回終了時を上回る。これは高得点が期待できる...

と思ったが、日が昇ってからが悲惨であった。頼みの 14MHz がぜんぜん呼ばれない。コンディションもふわふわしていて、前回のようなガツンという信号が来ない。7 時台は目標の半分くらいである。9 時台まで粘ったがコンディションは上がりきらず、21MHz へ。こちらもいまいち開けきらない。弱い信号を拾いつつ、昼まで粘る。この間に、朝までに稼いだアドバンテージがどんどん失われていく。

午後はスカッターとの戦いである。地方のビッグガンの信号を頼りに伝搬方向を探る。一度パスを見つけても、しばらくすると方向が変わるから困ったものだ。13 時過ぎに初めて 28MHz に上がる。こちらにもビームを回しつつマルチを取る。でも聞こえているのはビッグガンだけ。局数がなかなか伸びない。14 時台は行くバンドを失って、時間 40 局を切ってしまった。16 時を過ぎるとハイバンドのコンディションが上がってくる。マルチの少ない 28MHz でがんばるが、東南アジアのピヨピヨがうるさくて効率が上がらない。あまりにも疲れたので 7MHz に降りてしばし休息。



19 時近くになって、28MHz のマルチがぜんぜん少ないことに気づく。50MHz より少ない。必死に 28MHz で CQ を出す。ちょうどコンディションもピークとなる時間だか、ピヨピヨもものすごく強くなる。こんな時、キーイングのスピードが遅い局は全くとれない。東京近辺の、S が 9 つ振ってくる局でもだめである。高速電信でピヨピヨの合間に 2~3 文字とれる局のみ、パーシャルチェックの助けを借りて QSO できる。ここで稼いで 28MHz のマルチもまあまあとなった。後で聞いたらこの時間、50MHz も南南東スカッタが開けていたそうである。

19 時台は、どこに行っても呼ばれない。前回は 14MHz でかなり呼ばれたが、今年は全然ダメである。あやうく時間 20 局台に落ちるところだった。フィニッシュはどこにしようかと迷ったが、3.5MHz に踏ん張ることにした。結果は正解で、55 局と終了間際にしては局数が伸びた。

#### 反省点

結果は 1,282 局、244 マルチと局数、マルチとも目標を下回ってしまいました。夜が明けるまでは調子が良かったのですが、日が昇ってからハイバンドのコンディションがあがらなかったのが誤算でした。

バンドごとでは、ローバンドは局数、マルチとも少なすぎです。国内コンテストに向けたアンテナのチューンアップが必要です。14MHz はまあまあ、21MHz と 28MHz はマルチが少なすぎます。ほとんど呼びに回らなかったため、丁寧に探せばあと 5 ずつは増えそうな気がします。50MHz も夕方のスカッタを逃さなければ、もう少しマルチが増えたと思います。コンテスト数日前から、バンドコンディションをチェックしておく必要があります。

#### アドバイス

シングルバンド、マルチバンドに関わらず、フルタイム参加してみることをお勧めします。時間ごとのコンディション変化がよくわかり、楽しめると思います。

28MHz に出られる方へのお願いなのですが、電信は 30wpm 以上でお願いします。関東地方（とは限り

ませんが）からは東南ビームでスカッタを狙うことが多いのですが、東南アジアからの QRM をもるに被ります。遅い電信だとつぶされて受信できません。QRM の合間に 2~3 文字ピックアップできる高速の電信の方が、格段に了解度が上がります。

## 具体的な目標を立てて参加

電信部門シングルオペオールバンド M 優勝  
JK1XDB 大久保 祐志

バンド	得点	マルチ
3.5 MHz	284	46
7 MHz	307	49
14 MHz	168	44
21 MHz	107	33
28 MHz	73	24
50 MHz	140	23
合計	1079	219

× 219 = 236301

#### プロフィール

1978 年高校の無線部で参加した ALL JA コンテストが 1st QSO で、それ以来国内コンテスト中心に無線を続けて来ました。移動運用中心でコンテストに参加していましたが、数年前からは固定からも参加できるようになりました。

#### 使用機材

- RIG: TS940S, TS850S, IC746D
- ANT: 3.5MHz 短縮逆 V, 7/21MHz ローターダイポール, 14/21/28MHz トライバンド八木, 50MHz 5el 八木
- 周辺機器: エレキー
- ソフト: 手書きログなので使用せず

#### なぜこの部門を選んだのか

マルチバンド参加を前提に考え、固定からの M パワーでは SSB で局数・マルチを稼ぐのが難しいと判断して CAM 部門にしました。昨年は CMM 部門で 3 位 (955 × 213 = 203,415) だったので、今年は 1

位を取りたいと思いこの CAM 部門にしました。

#### 獲得目標

昨年 CMM1 位 (JK1JHU/1) が  $1,025 \times 230 = 235,750$  だったので、それを少し上回る 24 万点 ( $1,050 \times 229 = 240,450$ ) を目標にしました。目標達成のためには局数・マルチの両方を増やす必要があります、(1) 局数はローバンド中心で増やす (2) マルチはハイバンド中心で増やす、と言う方針にしました。



#### 改善・強化ポイント

昨年は 3.5/7MHz を 1 本の同軸ケーブルで同時給電していたので、両バンドを同時ワッチすることができませんでした。そこで今年は 7MHz 用ロータリーダイポールを新設し、別の同軸ケーブル給電することにしました。その結果昨年ローバンドは RIG 1 台 (TS850) だったのですが、今年は 3.5MHz (TS940)/7, 21MHz (TS850) と 2 台に増やすことができました。これで例えば 3.5MHz を運用中に 7MHz をワッチすることも可能になり、

3.5/7MHz 中心になる夜間効率アップを狙いました。

ハイバンドはトライバンド八木 (14~28MHz) 1 本のみなので 21MHz 送信中は 14/28MHz はワッチできず、昨年は短時間の open を見逃してしまいました。今年は 7/21MHz ロータリーダイポールの新設で、21MHz が 2 系統になりました。21MHz 送信中に 28MHz をワッチすることも可能になり、コンディションの変化に対応した QSY が可能になると考えました。

#### 事前準備

上記 7MHz ロータリーダイポールは 10m の釣竿を 2 本使った全長 20m のフルサイズのを製作しました。強度的にはやや心配なので、コンテストの時だけタワーの上部 (地上高 23m) に仮設して終了後に撤去しました。

#### コンテスト当日

昼間はいつもの日曜日と同じく家庭サービス (子守り) を中心に過ごしました。移動運用のときは移動、設営準備と忙しかったですが、固定はそれが無いので体力的にも楽です。

#### スタートから終了まで

直前：子供を風呂に入れたり最後の家庭サービスをしていたらすっかり遅くなってしまった。シャックに入ったのが 20:55, CQ を出す周波数など空いていないだろうと思いながらローエッジを避けて探すと 7.019MHz でそれなりに空いているところを発見。50MHz をワッチするが局数はまばらにしか聞こえないので、7MHz で行くことに決定する。

21 時：時報とともにサイドのかぶりもひどくなるが、負けずに CQ を出す。21:02 JH0RNN が 1 局目、その後も呼ばれ方は悪く、最初の 5 分で 3 局というスロースタートとなった。もう少しするとみんな高い周波数まで上がってくると考えて我慢の CQ を出す。

22 時：最初の 1 時間で 64 局、私にとっては上出来である。少しずつペースも上がっているの、ペースが落ちるまでこのまま 7MHz に居座ることにす

る。ただみんなが寝てしまう前に VHF も出たいので、22:50 に 50MHz に QSY。

23 時：50MHz は 1 分 1 局を下回るペースであったので、すぐに 3.5MHz に QSY して盛り返すことができた。23 時台は 67 局。

00 時：強気に 3.5MHz で CQ を出すがさすがにペースが落ちてくる。暇な時間に裏で 50MHz をワッチして未交信局を拾うことにした。自分の CQ と相手の CQ のタイミングが合わないのではなかなか呼ぶことができずにイライラするが、50MHz は 1 時間に 11QSO と少しだが 3.5MHz の落ち込み分を補うことができた。

01 時：3.5, 7, 50MHz を交互に QSY して出ている局を呼び回る。夜中でも盛んに出ているのは常連局ばかりである。そのまま 4 時台までこの 3 バンドで耐える。

04 時：50MHz で JH4UTP が安定して入感しているのでコンディションは良さそうだが、他の局が聞こえない。みんな寝てしまったのか？！

05 時：まだ早いかもしれないが、他に行き場が無いので 14MHz に QSY。1 エリア内のクラブ局が中心であるが、Sc で弱いながらも他エリアが取れた。

06 時：14MHz もだんだん賑やかになってきたが、強いのは 6, 8 エリアでそれ以外は Sc 気味で弱い。

07 時：21MHz に QSY。まだ本格的に open していないが、GW を中心にそこそこ聞こえる。4el トライバンドと 7MHz 用ダイポールを聞き比べたが、あまり違いが感じられない。試しにダイポールで CQ を出したところ GW では呼ばれるが、Sc は無理なようだ。

09 時：忘れないうちに 28MHz にも QSY。さすがに局数が少ないので呼びに回ってもすぐ終わってしまう。その後しばらくは各バンドを渡り歩く。

11 時：50MHz は西ビーム中心で CQ を出したところ、今回最も遠い 32 から呼ばれた。

13 時：7MHz を捨てて 14MHz を軸にハイバンド中心に未交信局を拾い歩く。午後から夕方にかけてハイバンドのマルチ増を狙うが 21, 28MHz のマルチがなかなか増えない。CQ を出すがビームを南方向に向けるとノイズレベルが高いことが判明し Sc を

捨てるのが苦しくなる。

18 時：ハイバンドをあきらめてローバンドに主軸を移す。定石では 7 3.5MHz の順に QSY するところだが、弱小局ははじき飛ばされそうなので逆にまず 3.5 MHz に QSY した。まだ 3.5MHz は空いていて CQ を出すことができたが、その分呼ばれるペースも悪い。呼びに回っても悪いのは同じと思いつつ同じ周波数で 2 時間半も粘ってしまった。

20 時：3.5MHz に長居をしたので最後の 7MHz は 20 分の短時間になってしまったが、4 時間ぶりなのでハイペースで稼ぐことができた。もう少し早く QSY すればよかった。

今回は大きなトラブルも無く 24 時間を乗り切ることができました。これが何よりの成果であると思っています。

#### 反省点

目標  $1,050 \times 229 = 240,450$  に対して結果は  $1,079 \times 219 = 236,301$  で、約 2% の未達でした。マルチが目標 -10 でしたが今年はハイバンドのコンディションが良くなかったと聞いていますので、私にしては上出来だったと思っています。

ローバンド (3.5/7MHz) の局数は昨年より 82 局増だったので改善の効果はあったようです。ローバンドは局数が増えたためにマルチも昨年より +3 でした。また CQ を出している時間に他のバンドをワッチして未 QSO 局を探したことも局数アップには貢献していると思います。

ハイバンド (14/21/28MHz) のマルチは昨年より +2 で期待ほど伸びませんでした。ハイバンドの大きな open が無かったので、ワッチしていてもなかなか new マルチを見つけることができませんでした。

#### アドバイス

私の場合できるだけ具体的な目標を立てるようにしています。「\*\*部門で 1 位になる！」ではなく、1 位になるために必要な局数とマルチを見積もって、それを実現するために何をすればいいのかを考えるようにしています。今回は局数・マルチとも不足し

ていたので上記改善を実施し具体的な成果が得られました。このように現状より改善する施策を考えて実行し、コンテストに参加して確認していく。そして次回までに何をしたらいいかを考えて行きます。こう書くと堅苦しい作業のように見えますが、一つ一つの施策の効果が確認できその結果がコンテスト上位入賞に結び付くのですから、やっている本人はとても楽しいと感じています。

## 最後にものをいうのは体力，気力

電信部門シングルオペオールバンド P 優勝  
JA3MVI/1 山本勝美

バンド	得点	マルチ
3.5 MHz	101	34
7 MHz	213	47
14 MHz	110	41
21 MHz	46	18
28 MHz	29	9
50 MHz	83	9
合計	582	158

x = 91956

### プロフィール

1967年、兵庫県でJA3MVIを開局。

コンテストには開局前のSWL時代から関心を持っていて、従事者免許の取得とともに学校クラブ局のメンバーとして参加するようになりました。徐々に熱が高じて、70年にはローカルとともにコンテスト・クラブ(QRVクラブ, JA3ZFN)を設立して、移動運用を行うようになりました。

その後、結婚、仕事が多忙、等のお決まりの理由でほぼQRTという状態が続いていましたが、97年に東京都八王子市の自宅で運用を再開しました。

### 使用機材

- リグ：IC-706MKII, TS-770, IC-T81, IC-756PROII
- アンテナ：3.5MHz ロングワイヤー + アンテナチューナー, 7 MHz 2el, 14/21 MHz 4 el,

28/50 MHz 5el

- ソフト：zLog



### 獲得目標

コンテストに参加する目的は、各個人でいろいろあると思いますが、再開後の当局の場合には第1に体力・気力総合での持久力テストとして自分の能力を確認することにあり、その結果として入賞できれば大いに喜ばしいということです。また、仕事や家族への影響が許容範囲内であることも、参加する条件のひとつと考えています。これらから、24時間のフル運用は無理、基本的に自宅からの運用ということになり、運用技術が結果に反映されやすい、また交信局数が少なくても入賞のチャンスがあるQRP部門、それもQRP CWを選んできました。

今年は、規約が大幅に変わり参加部門もかなり再編されましたが、やはり昨年の参加種目である電信オールバンドL部門に近い、電信オールバンドQRPを選びました。得点目標としては、昨年のL部門での自己記録78,351点を超えること、そしてあわよくば昨年のCW L部門優勝スコア96,320点に近づくこととしました。

### コンテスト前

今年は3.5 MHzの得点能力向上を目指して、ロングワイヤーを張りました。といっても、敷地が広くもない自宅ですのでルーフタワーにグラスファイバーの釣り竿を2本縛り付け、屋根の1端から釣り竿の先端へ、そして釣り竿に沿わせてもう1本の釣り竿の先端から屋根の別の端へと引き回しました。

さらに、カウンターポイズとして約 20m のビニール線を屋根の上に這わせ、これらをマニュアルのアンテナチューナに接続して整合をとることにしました。

チューナは、そのまま雨よけのビニール袋に封入して屋根の上に置き、そこからシャックまで同軸をひいて SWR を再確認して準備完了としました。

## コンテスト当日

21 時になり、予定通り 50MHz から運用を開始し、一通り呼んで回った後、しばらくランニング、呼ばれなくなるとまた一通りバンドをスイープという繰り返し。これも予定通り、22 時から 7 MHz に QSY、さらに 23 時から 3.5 MHz に QSY して、ここまでは順調。ここまで 3 時間で 100 局あまりの交信数は、QRP としては満足できるところ。

日付が変わって、今度は 50MHz から順次バンドを下げて局数を積み重ね、次の 3 時間でも 100 局をキープして、仮眠に入る。

約 2 時間の仮眠の後、3.5 MHz から運用を再開し、夜明けまではローバンドでがんばる。その後、50 MHz からまたもや順にバンドを下がってきて、7 時半頃から開けていた 14 MHz でしばらくがんばる。それで、仮眠明けの 3 時間も何とか 100 局ペースを維持できた。

ここからは、さすがにペースを維持できず、11 時までの 3 時間は約 90 局、14 時までの 3 時間は約 85 局とジリ貧になってきた。それでも 16 時前には交信局数が 500 局を超えたものの、16 時台は 20 局と低迷。ハイバンドに見切りをつけ、再び 3.5 MHz に下りるが、こちらも続かない。結局、1 時間 20 局ペースがやっとの状態、我慢、我慢。17 時半に一応の目標である、昨年の交信局数を達成。後は、どこまで積み上げられるか、最後の粘りどころ。しかし、結局 20 時過ぎに、得点が 9 万点を超えたところで、もうこれまでとした。

## 反省点

得点的には初期目標を達成し、上位目標にもある程度接近できたので、満足といえる。特に 3.5 MHz のアンテナを一応の長さのあるロングワイヤーにし

たのは有効で、昨年と比べてハイバンドが悪かったのだが、3.5 MHz でその分をカバーして余りあった。

今後に向けて、できれば 3.5 MHz のきちんとしたダイポールを上げたいところだが、ワイヤーで張るには敷地が不足しているし、本格的なローターダイポールを上げるにはタワーの上がこみ合ってきてるし、どうしたものか。まだ、妙案はない。

## 少しばかりのノウハウ

ノウハウというほどではないが、いくつか気がつくことを並べてみる。

自局のコールサインのアナウンスが少ない局があるが、やはり数局交信する毎にはアナウンスした方が、全体としては効率がいいのではないだろうか。

QRP 運用で余計に感じるのだが、信号が強いのに耳が伴っていない局はただ QRM をばら撒いているに等しい。オペレータの問題なのか設備の問題なのか、考えて改善してもらいたい。

電信のコンテストでは、ほとんどの参加局がナローバンド・フィルターを使っており、200 Hz も離れて呼ばれると気がつかない。呼ぶ側はゼロインに、呼ばれる側は RIT の戻し忘れに注意したい。

マルチ拾いのテクニックとして、ニューマルチの局が呼びに回っているときには、周波数を上がっていつているのか、下がっていつているのかを見極めて、先回りして CQ を出す。必中というわけではないが、5 割以上の確立では取れる。

最後にものを言うのは体力・気力なので、その調整も設備の調整に劣らず重要。また、コンテスト中も適宜飲み物、食べ物をとれるように準備しておきたい。

## 辛抱強く、最後まで粘ろう

電信電話部門シングルオペオールバンド H 優勝  
JH4UYB 岡野正樹

## プロフィール

1977 年開局以来、国内・DX コンテストを楽しむ。優勝 300 回以上。ALL JA コンテストは最も好きな

コンテストで 1997 年から 6 連覇中。

バンド	得点	マルチ
3.5 MHz	204	50
7 MHz	671	55
14 MHz	416	53
21 MHz	238	54
28 MHz	130	40
50 MHz	107	30
合計	1766	282

× = 498012

#### 使用機材

- リグ : TS-950SDX , TS-690SAT + リニア AMP
- アンテナ : 各バンドモノバンド八木 , V 型 DP
- パソコン : DynaBook + zLog



#### なぜこの部門を選んだのか

たくさんの局と QSO できるオールバンド部門こそが、コンテストの醍醐味を満喫できると思い、ここ数年は必ずこの部門に参加している。

#### 設定した獲得目標

2,000QSO , 290 マルチ。できれば自己の持つコンテストレコード更新が目標。

#### 改善・強化ポイント

2 つのバンドを同時にワッチできるようにリグ , アンテナを 2 系統用意。

#### 事前準備

zLogWin の最新版で入力練習。リグ , アンテナの切り替えを間違えないよう練習。

#### コンテスト当日

休日だったのでゆっくり昼寝して、夕方から各バンドのワッチ。

#### スタートから終了まで

定石通り 50MHz からスタート。例年通りの呼ばれ方ながら東方面 (1 , 2 エリア) の信号が弱い印象だった。

28-21-14MHz と順次下のバンドに QSY して主だった局を拾った。7MHz はスキップも無く良く Open していた。AM2 時に 3.5MHz に QSY して CQ を出す傍ら、50MHz の New マルチを探した。1 エリアは例年より弱いものの、マルチが 30 に達したので夜明け前に 50MHz は終了とした。

日の出とともに 7MHz から 14-21MHz と上がって行った。14MHz は不安定な Open で呼ばれ方にムラがあった。21MHz はスカッターのみで弱い信号相手に苦戦を強いられた。AM10 時台に 28MHz CW で弱いながら全国的な Open があったので、一通り呼びに回って CQ を出し始めた途端、リニア AMP が故障した。原因が分からず予備機と接続したりするもうまく行かず、気が動転してあせってしまった。これでリタイアかと落胆したが、獲得マルチは既に 250、局数は 1,000QSO を超えていることに気付き、屋外の空気を吸いながら後半の作戦を冷静に考えた。

50MHz 用の設備を HF に接続変更して少々のパ

ワー不足は CW 中心で出来るところまでやる、と決意して再開した。14MHzCW で CQ を出すと 1 エリアから程よいパイルが沸き起こった。丁度 1-2 局ずつ呼んでくる感じでとても効率が良い。この状態が丸々 3 時間続き、トラブルによるロスタイムを十分挽回出来た。21, 28MHz も CW 中心に未交信局を丹念に拾っていると 16 時には 1400QSO に到達した。最後は 7MHz 勝負と考えて CW と SSB を交互にひたすら CQ を出して局数を稼いだ。夕方に 50MHz でスカッターが Open しそうだったが、もはや QRV できる状態ではなかった。結果的にもう少しマルチの上乗せが可能な CONDX だったということになるが、私自身のベストから 3 番目の成績に大いに満足した。

### 反省点

中盤でリニア AMP が故障してリタイアの危機があったが、別系統の設備でどうにか乗り越えた。コンテストは 24 時間の耐久レースなので日頃から機器のメンテナンスが重要と痛感した。2 つのバンドの同時受信などさらにテクニックを磨いて来年に臨みたい。

### アドバイス

コンテストの開始前・開始早々は皆さん元気一杯でバンド中にぎやかですが、時間の経過とともに飽きて(あきらめて)脱落する局が多いように感じます。コンテスト中はなかなか思い通り局数も伸びませんが、辛抱強く粘って最後までやり遂げると心地よい達成感が得られます。最後までがんばった局に、入賞というご褒美が与えられるのではないのでしょうか。一度入賞してしまえば、もうコンテストの虜になっていることでしょう。

### 部門を選べば入賞・優勝の可能性が

電信電話部門シングルオペオールバンド P 優勝  
JE1SCJ 吉田卓斗

バンド	得点	マルチ
3.5 MHz	179	41
7 MHz	205	46
14 MHz	126	33
21 MHz	56	18
28 MHz	37	9
50 MHz	161	16
合計	764 ×	163 = 124532



### プロフィール

1972 年 50MHz AM で開局する。しばらくの間 6m 中心に活動。リグやアンテナの自作や移動運用を多少したものの、コンテスト経験はあまり多くなかった。

1994 年アマチュア無線活動を復活。UEC コンテスト 50MHz で優勝したのをきっかけに、コンテスト中心の活動となる。50MHz シングルバンドのみで参加していたが、きゅうあーるえるクラブ発行のコンテストガイドブックに刺激を受けて、1998 年秋からマルチバンド部門に出始める。1999 年の全市全郡で CML 部門優勝したのをきっかけに、全面的にマルチバンドへ移行した。

現在、国内を中心にコンテストに参加しているが、クラブ対抗得点となる ALL ASIA にも参加したり、2.4GHz から 10GHz までの SHF バンドにも力を入れ始めている。東京都世田谷区在住 三文字クラブ 在籍

入賞経験： ALL JA 6 回，6m AND Down 3 回，全市全郡 2 回他多数

#### 使用機材

- リグ： IC-736(9MHz と 455kHz の 500HzCW フィルタを実装)
- アンテナ： 3.5MHz - 7MHz： 13mH インバーテッド V 14 - 28MHz： 14mH 4 エレトライバンド 50MHz： 16mH 7 エレ八木
- パソコン： 自作 Celeron 450MHz
- ソフト： zLog win
- 小道具： CI-V インターフェース

#### なぜこの部門を選んだのか

本気で参加するからには、入賞が目標(もちろん、軽く流しているコンテストもあります)。TVI 等インターフェアの心配が無いから。

#### 設定した獲得目標

2001 年 FML 部門で自分が獲得した 126,480 点を上回る事。

#### 改善・強化ポイント

CI-V インターフェースを自作した。リグのバンドスイッチで zLog のバンドが追従してくれるのが、こんなに楽な事だと、初めて知った。もっと早く作ればよかった。

#### 事前準備

自宅の無線室なので、特にこれと言った準備はしていない。夜食やドリンク剤を少々仕入れる程度。

#### コンテスト当日の行動

子供たちのお守りをしながらも、できるだけ昼寝をした。

#### スタートから終了まで

いつものように 50MHz からスタート。QRP なので、ロケットスタートとは行かないが 51 分で 47 局と良いペースでバンドチェンジ。28MHz から短い間隔で降りていって、7MHz をスキップして 23 時には 3.5MHz に行く。3.5MHz は昨年もう少しできそうだという気持ちが強かったので、早めに行って呼び回りと CQ を繰り返す。QRP でも夜が更けてくると、局数が減るせいか潰されずにすむ。朝 6 時まで 7MHz と 50MHz を加えた 3 バンドで局数とマルチを稼ぐ。この時点で 362 局 104 マルチとかなり強気に設定した目標値も大きく上回る。

6 時から 14MHz に QRV し、そこそこのペースで局数もマルチも積み上げる。ところが、8 時から 21MHz、28MHz に QRV し始めたハイバンドが不調である。スキッターが出ているのが分かるが、QRP なので、弱い局を呼んでも取って貰えない。仕方ないので、強い局だけしか呼び回れない。CQ を出してみても無駄に時間が過ぎていくだけ。ハイバンドは局数もマルチもあきらめて、早めにマルチ飽和状態の 7MHz に QRV する。15 時過ぎから 1.5 時間で 73 局、マルチは増えなかったが、この時間帯では大正解。残り 4 時間 3.5MHz でたっぷり局数を稼いだものの、他には 50MHz しか行き場がなく、ラストパートは不発に終る。50MHz は昼夜を問わず散発的に運用したが、コンディションの良い時間に当らず、マルチがさっぱりだった。

昼寝したのが効果あったのか、夜中一睡もせずに 24 時間オペレート出来た。

#### 反省点

ハイバンドでのマルチが激減した分をローバンドの局数とマルチで取り戻そうとしたが、ハイバンドが悪すぎた。総得点で昨年の得点には至らなかった。

QRP はコンディションに大きく左右されるのは仕方ないが、短くてもオープンしてははずで、そのタイミングを逃がさないように、複数リグによる同時ワッチを行ないたい。

来年も XAP で辛い 24 時間を過ごして、入賞を目指すのか、入賞を諦めてもう少しのびのびとコンテストを楽しむのか悩み中。

アドバイス

目標を持って参加すれば、必ず結果がついてくると思います。私のように移動せずに、ルーフタワー

しかない貧弱な自宅アンテナからの参加でも、部門を選べば、優勝や入賞の可能性は十分出てきます。自分の得意なバンドやモードは何かと分析した上で、過去の成績を十分検討して作戦を練ると良いと思います。

## 各局のタイムチャート

今回、コメントを寄せていただいた各局のタイムチャートを分析してみます。タイムチャートはログを時間軸で集計したもので、何時にどのバンドに出ていたのかがわかります。どの局も 3.5MHz 帯は深夜に、HF ハイバンドは昼間の時間帯に運用しているといった傾向がわかるでしょう。つまり、昼間に 3.5MHz を運用したり深夜に HF ハイバンドにオンエアしても、あまり効率が上がらないというわけです。

また、明け方の 4 時ぐらいから 50MHz 帯に QSY している局が少なくありません。これは、明け方になると 50MHz ではグランドウェーブが伸び、たとえば 1 エリアから 3 エリアや 4 エリアと QSO できるなどのメリットがあるからです。

入賞局のタイムチャート通りにバンドチェンジをしても、それだけで入賞できるわけではありませんが、マルチバンドでの運用に慣れていない方はぜひ参考にしてみてください。

なお、ここに紹介した形式のタイムチャートはコンテストロギングプログラム zLog for Windows のデータを zlist というプログラムで処理して出力したものです。

### 7N4JZK

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
3.5	-	11	5	-	6	10	-	-	-	-	-	-	1	3	1	-	-	-	-	3	10	2	4	3	59
7	-	-	-	11	-	14	2	-	-	-	7	-	6	-	-	13	7	7	12	4	-	8	2	2	95
21	-	-	16	2	5	-	-	-	-	-	7	6	-	6	-	-	5	-	-	5	3	-	-	-	55
28	-	-	16	-	4	-	-	-	-	-	3	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
50	47	26	-	15	11	-	-	-	-	-	-	9	16	-	10	-	-	9	-	-	2	5	9	18	177
合計	47	37	37	28	26	24	2	0	0	0	17	17	23	11	13	13	12	16	12	12	15	15	15	23	415
累計			121		199			201			235		282		323		362			415					

### JG1ILF

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計	
3.5	-	-	14	81	38	-	16	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54	233
7	97	19	29	-	-	32	26	11	10	39	-	-	-	-	-	-	-	-	13	48	37	-	-	-	361	
14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	47	88	47	-	7	31	-	-	32	-	-	-	16	-	1	269
21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	74	40	2	33	27	5	-	-	-	-	-	-	-	181
28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	39	9	8	31	-	11	10	-	108	
50	-	36	15	-	17	16	5	-	24	6	6	-	-	1	-	9	-	-	-	-	-	-	7	-	142	
合計	97	55	58	81	55	48	47	41	34	45	53	88	47	75	47	42	72	36	45	44	48	48	33	55	1294	
累計			210		394			516			702		871		1021		1158			1294						

**JK1XDB**

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
3.5	-	-	50	54	9	29	32	10	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	34	30	29	284
7	64	59	-	-	37	-	20	20	15	-	7	1	18	-	9	24	7	1	2	2	-	-	-	21	307
14	-	-	-	-	-	-	-	-	10	45	-	7	12	28	-	-	29	25	-	-	10	-	2	-	168
21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	41	4	-	3	6	2	8	24	-	8	-	1	-	107
28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	20	8	-	-	10	21	3	-	-	-	73
50	-	8	17	11	11	15	-	7	13	2	20	-	-	14	9	1	-	-	-	9	1	2	-	-	140
合計	64	67	67	65	57	44	52	37	40	48	38	49	45	42	41	39	38	34	36	32	25	36	33	50	1079
累計			198		364			493			628			756			867			960			1079		

**JA3MVI/1**

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
3.5	-	-	26	-	15	12	-	3	15	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	7	3	2	101
7	-	43	-	3	20	10	-	-	22	11	-	19	3	19	7	13	15	-	11	-	6	-	11	-	213
14	-	-	-	-	5	1	-	-	-	-	17	16	8	15	-	7	6	7	4	8	3	8	5	-	110
21	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	8	-	6	-	7	-	-	5	5	5	4	2	2	-	46
28	-	-	-	7	-	1	-	-	-	6	1	-	-	-	7	4	-	-	-	2	-	1	-	-	29
50	38	-	-	20	-	6	-	-	-	4	-	-	7	-	2	-	2	2	1	1	-	-	-	-	83
合計	38	43	26	30	42	30	0	3	37	33	26	35	24	34	23	24	23	14	21	17	18	18	21	2	582
累計			107		209			249			343			424			485			541			582		

**JH4UYB**

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
3.5	-	-	-	-	1	92	52	45	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	204
7	-	-	-	34	106	-	-	-	62	43	56	-	-	-	-	-	-	-	-	65	83	78	73	71	671
14	-	-	-	41	-	-	-	-	-	-	19	69	21	-	55	88	81	40	-	2	-	-	-	-	416
21	-	29	88	1	-	-	-	-	-	-	-	9	63	5	2	-	-	15	24	1	-	1	-	-	238
28	11	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	54	-	-	-	-	41	8	-	-	-	-	130
50	79	17	-	-	-	4	4	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	107
合計	90	60	88	76	107	96	56	47	63	57	75	78	86	59	57	88	81	55	65	76	83	79	73	71	1766
累計			238		517			683			893			1095			1319			1543			1766		

**JE1SCJ**

	21	22	23	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
3.5	-	-	37	10	24	1	27	4	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	11	31	-	180
7	-	-	-	36	13	25	15	19	-	15	9	-	-	-	-	-	-	-	26	47	-	-	-	-	205
14	-	3	-	-	-	-	-	-	2	17	14	13	8	19	9	15	10	5	5	-	4	-	-	2	126
21	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	3	-	12	13	2	5	-	-	1	-	-	1	56
28	7	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	-	3	3	5	-	-	2	-	-	1	38
50	47	20	1	-	-	17	-	6	3	-	10	2	15	-	3	-	6	2	-	-	11	7	-	11	161
合計	54	46	38	46	37	43	42	29	29	32	33	25	26	22	24	31	21	17	31	47	29	18	31	15	766
累計			138		264			364			454			526			595			702			766		